

F P まつもと通信

知って得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

ご挨拶

11年前の3月、東日本大震災が起きました。このような大きな災害が起こった時に真っ先に確認したいのは、家族の安否ではないでしょうか？

災害時の避難経路や連絡方法についてご家族や身近な人と話をしていますか？

特に、春は卒業や進学、就職や転勤などで通学先や勤務地が変わる季節です。年度変わりのこの時期、家族で防災会議を開いてはいかがでしょうか？

また、卒業や進学はライフプランが変わる時でもあります。保険の内容を確認することも忘れないでください。



今月号のちょっと気になるお金のコラム

オリンピックのメダルはアスリート達の長期間にわたる努力の積み重ねの結果、その価値は「プライスレス」です。では金メダルの材料費はいくらぐらいなのでしょう？

マンション価格 バブル期越え

首都圏で去年1年間に販売された新築マンションの平均価格（1戸当たり）は6260万円と3年連続上昇しバブル景気に沸いた1990年の6123万円を上回り過去最高になったというニュースがありました。

海外からの投資、安定した中古価格、低金利、などが要因としてあげられています。特に影響が大きいのが低金利ではないでしょうか？

1990年の住宅ローン金利は、住宅金融公庫の基準金利が5.5%、都市銀行の変動金利は8.5%でした。

仮に5.5%で5000万円、35年ローンを組むと返済総額は、112,772,892円と借入元本の2倍以上になります。

現在の変動金利は大手銀行で0.475%、同じ5000万円、35年ローンの支払い総額は、金利が変わらなるとすると54,281,007円です。物件価格が同じでも実際の負担額に大きな差があることがわかります。

ただし今後は住宅ローン金利が米国金利の上昇など受け、上昇するのでは、という見方もあるようです。変動金利での借入れは注意が必要かもしれませんね。



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

info@fp-matsumoto.com

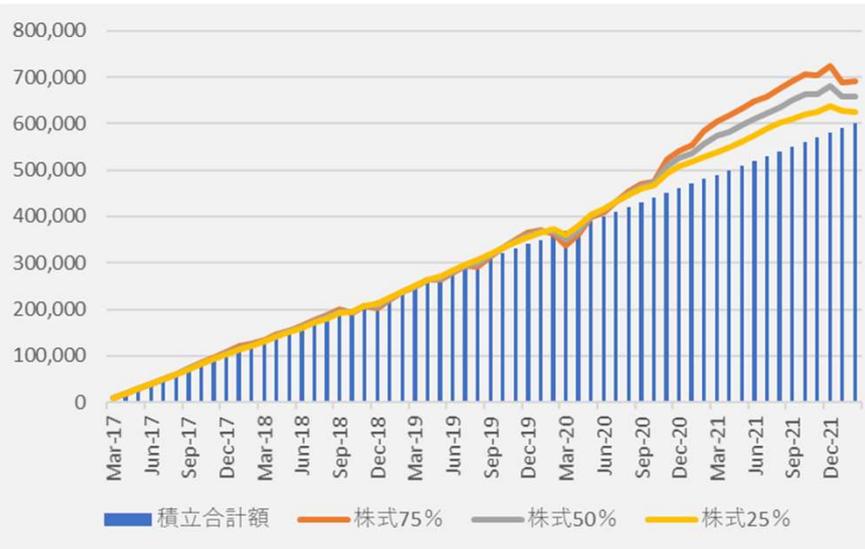
<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの「悲惨な老後の実態」を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勧める、「確定拠出年金」や「つみたてNISA」を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2021年12月末	580,000	723,766	679,721	637,917
2022年1月末	590,000	688,302	657,550	627,429
2022年2月末	600,000	690,249	657,161	624,696

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

	日経平均	NYダウ	ドル円
1月末	27,001.98	35,131.86	115.12
2月末	26,526.82	33,892.60	114.99
	-1.76%	-3.53%	

ロシア ウクライナに侵攻

2月24日にロシアがウクライナに侵攻、現在も戦闘が続いています（3月4日現在）。4日には原子力発電所で砲撃による火災が発生するなど益々緊迫しています。

今年に入り、金利上昇やインフレ懸念、により株式市場が調整していたところでの軍事侵攻でさらに資源価格が上昇しインフレがより厳しいものになることが予想され始めています。

さらに欧米による経済・金融制裁により通貨ルーブルは大幅に下落、今後ロシアの企業や金融機関に対する債権が回収できない、もしくは回収できても大きく棄損する、というようなことになってくるかもしれません。

また、ロシア企業やガス開発などのプロジェクトに対しての貸付が予想以上に多額で、それが回収できないと欧米の金融危機に飛び火する可能性も出てきます。

戦争終結までは不安に感じることもあるかもしれませんが、長期の積立投資ではニュースに振り回されずに継続することが大切だと考えています。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

2月24日にロシアがウクライナに侵攻。停戦の見通し
がつかない中（3月4日現在）株式市場も不安から値
動きが大きくなっています。

NYダウ平均株価は、直近の高値の36799.15ドル（1月
4日）から侵攻前日の2月23日の33131.76ドルまで約1
割下落しました。

核をちらつかせるなどまだまだ不安定な状況で戦況
によってはさらに下落があるかもしれません。

今月は2001年9月のアメリカ同時多発テロから2003年
3月のイラク戦争開戦までを振り返ってみたいと思ひ
ます。

下図は1999年末から2006年末までのNYダウ平均株価
の推移を表しています。

2001年9月11日に同時多発テロが発生、NY証券取引
所は11日から14日まで取引停止、明けた17日は1日で
684ドル安（約7%）でした。

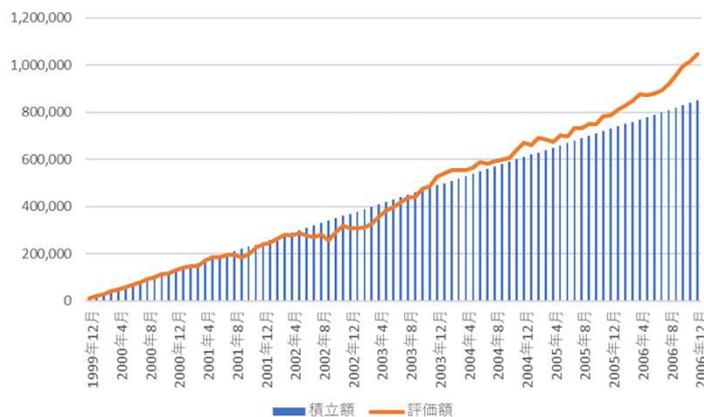
そこから約1年半、イラクとの戦争に向かうとの懸念、
イスラム社会とキリスト社会の対立、など先行きに
対する不透明感から値下がりを受けITバブル時の
1999年末の11497.12ドルから開戦前の2003年2月末に
は約31%安の7891.08ドルになりました。

この時期はITバブルの崩壊とも重なるのですべてが
戦争を原因とするものではないと思いますが大きな
影響があったことは間違いありません。



このような戦争による不安が生じたとき積立投資はど
うすればよいでしょうか？

下図は1999年末から2006年末までの85カ月間、毎月1
万円づつNYダウ平均を積立してしていた場合のグラフで
す。



イラク戦争開戦時には40万円の積立元本が32万円と約
17%のマイナスになっていましたが、ITバブル時の高
値に戻った2006年末には85万円の積立が約104万円に
なりました。

現在のNYダウ平均は約33000ドルですからこの7年間に
積立した85万円は約277万円と約3.2倍になっています。

こうしてみると同時多発テロからイラク戦争の下落時
は積立を継続していたほうが良かったことがわかりま
す。

なぜこのように戦争があってもバブル崩壊があっても
株価は回復するのでしょうか？

それは企業がどのような環境下であっても利益を得る
ための活動を継続するからです。ウクライナ侵攻によ
り世界経済は停滞することが予想されますし、まして
や今回は核兵器の使用までちらつかせています。

しばらくは不安定な状況が続くことが予想されますが
長期の積立投資ではこのような時も落ち着いて継続す
ることが大切だと考えています。

ちょっと気になるお金のコラム

昨年の東京に続き今年の北京とコロナ禍でのオリンピックが続きました。無観客で少し寂しく感じるかもしれませんが、日本人選手の活躍に元気づけられた人も多かったのではないのでしょうか？

金メダルの値段は？

選手にとって金メダルは物の値段以上の、文字通り「プライスレス」の価値があると思います。

材料等の規格についてはオリンピック憲章で以下のように定められています。

「メダルは、少なくとも直径60ミリ、厚さ3ミリでなければならない。1位および2位のメダルは銀製で、少なくとも純度1000分の925であるものでなければならない。また、1位のメダルは少なくとも6グラムの純金で金張り（またはメッキ）がほどこされていなければならない。」

金メダルも銀でできていて表面が6グラムの金だったのですね。

では金メダル一つの方法費はいくらぐらいなのでしょう？

東京オリンピックの金メダルの重さは556グラムなので材料は550グラムの銀と6グラムの金ということになります。



2022年2月の金価格が約7600円／グラム、銀価格が約95円／グラムなので、金メダル一つの方法費は約97,850円となります。

金6グラム×7,600円＝45,600円
銀550グラム×95円＝52,250円

東京オリンピックのメダルは大阪の造幣局で一つ一つ手間をかけて作っているのだから値段をつけるのは難しいのは勿論です。

オークションでは？

獲得したオリンピックメダルをオークションに出すアスリートも少なからずいるようです。

記憶に新しいところだと昨年の東京オリンピック、女子やり投げ銀メダリストのマリア・アンドレイチェク選手（ポーランド）がいます。

ポーランドの重度の心臓病の生後8か月の男子が治療のためにアメリカに行く費用を募っているのを知り、獲ったばかりの銀メダルをオークションに出しました。

地元企業がこれを約1400万円で落札。ただしメダルは受け取らずアンドレイチェク選手の手元に残ることになりました。

材料費約52,000円の銀メダルが約1400万円の寄付になり、幼い命を救ったわけです。

オリンピックならではの心温まるプライスレスな出来事ですね。